

## 麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起について（第2報）

平成30年4月21日に、本県で麻しん患者が発生したことを報告しましたが、平成30年4月23日、東郷町内の医療機関（以下、「医療機関A」という。）から愛知県瀬戸保健所に、麻しんの疑いの報告があり、県衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、本日、陽性であることが判明しました。

なお、この患者の行動範囲は、医療機関A及び保育所以外には自宅に限定されていますが、引き続き、当該患者の接触者についても、注意喚起及び健康観察を行います。

今後、県内で新たに麻しん患者が発生した場合は、県のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/0000013280.html>「麻しん（はしか）の発生について」）に随時公開します。

### 記

#### 1 患者概要

患者：1歳代 女性（東郷町在住）  
麻しん予防接種歴有り（1回）、海外及び沖縄への旅行歴無し  
主な症状：発熱、発疹等

#### 2 経過

4月10日（火） 東郷町内の医療機関Aを受診  
11日（水） 麻しんの定期予防接種を実施  
～20日（金） 東郷町内の保育所に通園  
20日（金） 発症（発熱）、医療機関Aを受診  
23日（月） 医療機関Aを再度受診、愛知県瀬戸保健所に麻しん疑いの報告あり  
24日（火） 県衛生研究所による遺伝子検査の結果、麻しんと確定

※医療機関A、保育所において麻しん患者と接触した可能性のある方については、各自治体の管轄保健所等が健康観察を実施します。

※医療機関Aは、平成30年4月11日に発生した麻しん患者が受診した医療機関です。

※麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされており、現時点で患者が利用した施設等を利用されても、当該患者を原因とする麻しんウイルスに感染することはありません。

#### 【県民の皆様へ（注意喚起）】

- 麻しん患者と接触した場合は、発病までの期間を考慮し、接触後最大21日間の健康観察が必要です。
- 発熱、発疹等の症状から「麻しん」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡の上、速やかに受診してください。また、受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。心配なこと等ありましたら、最寄りの保健所にご連絡ください。

※本情報提供は、感染症予防啓発のために行うものですので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。

### 3 参考

#### (1) 本県での麻しんの発生状況（平成30年度）

No	患者	住居地	予防接種歴	検査確認日
1	10歳代男性	名古屋市	なし	4月11日
2	30歳代女性	豊山町	不明	4月21日
3	10歳代女性	名古屋市	なし	4月23日
4	10歳代女性	名古屋市	なし	
5	1歳代女性	東郷町	1回接種	4月24日

#### (2) 沖縄県での発生状況

平成30年3月20日に麻しんと診断された台湾からの旅行客を発端に、この旅行客と接触歴のあった者や同じ施設を利用した者を中心に断続的に沖縄県内で感染者が増加しており、4月23日時点で71名の患者が沖縄県から報告されています。

#### ゴールデンウィークに沖縄県や海外へ旅行を予定されている皆様へ

- 旅行に行く前に…麻しんの予防接種歴を母子手帳などで確認し、2回接種していない方は予防接種を検討してください。
- 旅行から帰ったら…旅行後2週間程度は健康状態に注意しましょう。

※麻しんの詳しい情報は次のホームページでも入手できます。

「ゴールデンウィークに海外や沖縄県へ旅行を予定されている皆様へ」

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/gw-travel-kansenshou.html>

「麻しん（はしか）の予防について」

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/0000013280.html>

#### 麻しん（はしか）とは

- 麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、空気感染\*、飛沫感染、接触感染によりヒトからヒトに感染が伝播します。その感染力は非常に強いと言われており、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われていています。

※麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下と言われています

- 感染すると、約10～12日の潜伏期間の後、38℃前後の発熱が2～4日間続き、咳や鼻水といった風邪のような症状が出ます。その後、少し体温が下がり、再び高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。発疹出現後3～4日間で解熱し症状は軽快、合併症のないかぎり7～10日後には症状が回復します。
- 麻しんは発熱が長く続き、体力の消耗が激しいため、合併症がなくても入院を要することが少なくありません。
- 近年はワクチンの2回接種が行われ、麻しんに感染する方の人数は減っていますが、海外の流行国への渡航歴がある人やその接触者で患者が発生しています。